

群馬大学医学部附属病院

群大病院だより

GUNDAI NEWSLETTER

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町三丁目39-15 / TEL 027-220-7111(代) / ホームページ <http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/>

医療安全の鍵を握る患者参加型医療 ～群大病院が目指す患者参加型医療～

病院長 田村 遵一

初の患者参加型医療推進委員会を開催

本院では医療事故再発防止を目的とし、今年も6月18日～22日を「医療安全週間」と定めてさまざまな取り組みを実施致しました。今年のテーマは「患者さんと共に進める医療安全」。すべての職員が患者さんの安全を第一に考え、患者さんやご家族と共により安全安心な医療の提供を進めていきたいという思いを込めたテーマです。

今年の「医療安全週間」で、初めての患者参加型医療推進委員会を開きました。同委員会は、本院における医療事故で大切なご家族を亡くされたご遺族お二人と病院職員14人の計16人で構成されています。委員会では、「患者さんご自身が自分の病気や医療を十分理解し、主体性をもって医療に参加する」という患者参加型医療の定義を共有しました。患者さんの気持ちに寄り添った医療を提供するために、患者様さんが求める医療安全とは何かなどについても話し合いました。

初の委員会を実りあるものにするために、大切にしたのは雰囲気づくり。ご遺族が話したいことを本音で何でも話せるよう、テーマも設けませんでしたし、リアルタイムで公開もしませんでした。公開については慎重に、その方法を含めて今後、検討いたします。ご遺族からは「参加しなければ分からないことがあり、参加して良かった」と仰っていただきました。委員会は、年4回ほど開催予定。メンバーは、外部の方を増やすことも考えています。

遠慮なくご意見やご希望を

「患者参加型医療」は、本来であれば当然の話です。「当然の話」になぜ今、熱心に取り組んでいるのかといえば、このことが医療安全と密接に結びついているからです。

私たちは安全な医療を提供するために、チーム医

療に力を入れています。患者さんご家族もチームの一員です。患者さんには病気や治療に関してすべて医師任せにするの



ではなく、病気や治療への知識を高めていただく必要があります。もちろん私たちは専門職としての立場からさまざまな可能性をお伝えしますが、疑問に感じたら遠慮なくお尋ねください。「～したい」「～したくない」などの希望はわがままではありません。どんどんお聴かせください。踏み込んだ内容の質問や相談が、医療の質の向上を後押しします。また私の経験上、治療に積極的に参加する患者さんの方が、望ましい治療結果になることが多いようです。

「患者参加型医療」における患者さんのアプローチは、このように個人のことに向けられるもののほか、医療全体に広く向けられるものがあると思います。難しいことはありません。病院、スタッフ、システム、何でもいいのです。どうぞご意見をお聴かせください。直接伝えれば、ご意見箱に意見をお寄せいただくのでも、ボランティアさんにお話しいただくのでも結構です。ご意見箱のすべての意見には私が直接目を通しますし、ボランティアさんとは話し合いの場を設けて寄せられた意見についてうかがっています。みなさんのひと声、これもまた医療の安全につながる立派な「患者参加型医療」なのです。

も く じ



- 医療安全の鍵を握る患者参加型医療～群大病院が目指す患者参加型医療～ … 1 ページ
- 群大病院「医療安全週間」(6/18～22) … 2 ページ
- 新任のご挨拶 … 3 ページ
- 病院探検! 「画像診療部」 … 4 ページ
- 病院体験! ①「小中学生のための医学研究者・医師・看護師体験教室」 … 4 ページ
- 病院体験! ②「ひらめき☆ときめきサイエンス」 … 4 ページ
- イベント情報「重粒子線がん治療施設見学会」 … 4 ページ

群大病院 「医療安全週間」

6/18～22

患者の皆様が安心してかかることのできる病院、病院職員が自信と誇りをもって働くことができる病院こそ、理想の病院といえるでしょう。群大病院は全職員が一丸となり、医療の質と安全を向上するように努めております。医学が進歩し、医療技術が高度・専門化するとともに、医療に伴う危険も高まっています。すべての職員が患者さんの安全を最優先し、医療安全に対する意識を高めるとともに、患者さんや皆様にも病院内での取り組みを知っていただくために平成29年から年一回、群大病院「医療安全週間」を開催しています。今年度は「患者さんと共に進める医療安全」をテーマに、6月18日（月）から22日（金）の1週間を医療安全週間といたしました。

各部署での医療安全の取り組みに関する23点のポスターならびに医療安全標語43作品を展示しました。皆様の中にも、ポスターをご覧になった方も大勢いらっしゃると思います。ポスターや標語は来院された方々にも投票いただき、優秀作品を決定いたしました。標語の最優秀賞は「忙しい、そんな時こそ、君の名は？」です。患者さんの間違いをなくすため、検査や処置の前には、「患者さんにお名前を名乗ってもらう」ことは世界的な常識です。顔見知りのスタッフから「お名前を名乗ってください」といわれてもお気を悪くせず、「安全のために大切なことだ」とご理解いただき、ご協力をお願いいたします。



各部署の日頃の活動が、きれいなポスターで紹介されています



大勢の患者・家族の皆様にもポスターをご覧いただきました

今年の4月には、群大病院、群馬県、群馬県医師会の共催で、医療安全に関する国際シンポジウムを開催しました。国外の医療安全の専門家の方々からご講演いただき、活発な討論がもたれました。医療安全週間では、このシンポジウムの内容を特別展示としてご紹介させていただきました。



医療事故を経験されたご遺族の講演会を開催し、大勢の職員が参加しました

院内職員向けの講演会として、他の病院で医療事故を経験されたご遺族の講演会と、群大病院で医療事故を経験されたご遺族の講演会を行いました。参加者は、医療者と患者・家族の信頼関係を築くこと、治療内容について十分な説明、話し合いをすすめることの大切さを深く心に刻みました。

「患者参加型医療」は、医療の質と安全を向上させるために欠かせません。医療安全週間の中で、患者参加型医療推進委員会の初会合を持ちました。定期的に会合を開き、患者・家族の皆様と医療者がいっしょになって医療の質と安全を強化していきたいと思えます。患者さんが自らの病気や治療について理解を深めることが患者参加型医療の第一歩です。聞きたいこと、不安なこと、お気づきの点がありましたら遠慮せずに職員にお伝えください。

群大病院は「安全・納得・信頼の医療を提供する」ことをめざして皆様とともに歩いていく決意です。

（医療の質・安全管理部長）

新 任 の ご 挨 拶

消化器・肝臓内科

教授 浦岡 俊夫



みなさん、こんにちは。1月に国立病院機構東京医療センターより赴任しました。私の専門は内視鏡診断・治療でして、早期癌には、胃や食道はもとより、より高度な技術を要する大腸や十二指腸でもこれまでの技術と経験を生かして治療してきました。今後も最先端で患者さん第一の診断・治療に取り組みます。私たちは、炎症性腸疾患、進行がん、消化管機能性運動障害、ウイルス性肝炎などの肝疾患、良悪性の胆膵疾患の診療をスタッフ一同これからもしっかりと行い、地域の医療に貢献できますよう頑張ります。どうぞ宜しくお願いいたします。

産科婦人科

教授 岩瀬 明



こんにちは。2月に着任いたしました岩瀬明と申します。産科婦人科では、妊娠・分娩管理、不妊症治療、子宮筋腫、子宮がん、卵巣がんなどの手術・薬物治療、思春期・更年期疾患の管理など、幅広い診療を行っています。前任の名古屋大学では、婦人科内視鏡手術と不妊症治療の責任者および総合周産期母子医療センター長を務めていました。群馬大学を中心に県内の産婦人科医療体制を整え、子宮がんに対する腹腔鏡手術や卵子・卵巣凍結保存などの新しい医療も提供できるよう、安全第一でスタッフ一同がんばります。よろしくお願いいたします。

循環器外科

教授 阿部 知伸



みなさん、こんにちは。循環器外科の阿部と申します。本年3月に名古屋大学より着任しました。20年以上ずっと成人心臓と胸部大動脈の外科治療を、海外も含めて研鑽して来ています。今日の心臓・血管手術は決して「他に治療法がないから」行うものではありません。「他の治療法よりしっかり治るから」「より効果が長持ちするから」といった理由で積極的に選択するものです。最先端の外科学の成果を安全・確実に患者さんにお渡しして手術前より元気になって頂こうと、スタッフみんな鋭意診療にあたっています。どうぞ宜しくお願い致します。

腎臓・リウマチ内科

教授 廣村 桂樹

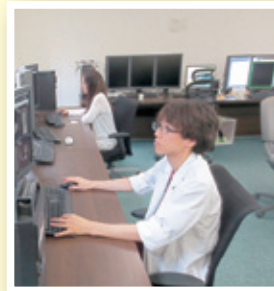


みなさん、こんにちは。4月より腎臓・リウマチ内科の教授となりました廣村と申します。群馬大学には20年以上勤務し、腎臓病と関節リウマチなどの膠原病の診療を行ってきました。腎臓病は放置すると透析にいたる危険があるだけでなく、脳卒中や心筋梗塞になりやすくなることが、最近わかってきました。腎臓を守るとともに命を守るように診療しています。また関節リウマチ・膠原病ではいろいろな薬が開発され、治療が大きく進歩しています。スタッフ一同、正しく診断し適切な治療を行うことで、症状の緩和・消失をめざしています。よろしくお願いいたします。

病院探検！「画像診療部」

『病院機能の屋台骨』

放射線部では、レントゲン写真を撮ったり、CTやMRI、超音波検査、核医学検査、その他さまざまな画像検査、さらにIVRといわれる画像誘導下治療を実施しています。画像診療部は放射線部と一体的に診療を行う部署で、約30名の放射線科医が働いており、検査結果の解釈（読影といいます）を報告書にまとめ、担当医に送付しています。患者さんの前に姿を見せることはあまりない裏方仕事ですが、病院機能の屋台骨と自負しています。



CTやMRIなどの画像検査には放射線科医の報告書が添付されます



画像誘導下治療

病院体験！① 小中学生のための医学研究者・医師・看護師体験教室

7月31日(火)に30名が参加し、多分野の講師から「命の大切さ」「食事と栄養」「私が法医学者になった理由」「医療ロボットを自在に操る医師のお話」と題した講義を受けました。「看護師さんと巡る！院内ツアー！」ではDMAT（災害派遣医療チーム）カーの乗車や病棟見学も。コース別体験では緑色蛍光タンパクで光る細胞の顕微鏡観察や、心臓エコーの操作などを体験しました。白内障や視野狭窄体験用ゴーグルを装着した高齢者体験では、お年寄りに対する優しさも芽生えたことと思います。医療や医学に更に興味を持ってもらえたなら心より嬉しく感じます。



マウスの脳ってどんな感じ？



心臓の動き、エコーで見えたかな？



聴診器で肺の音を聴いてみよう！



DMATカーの前で隊員とピース！

病院体験！② ひらめき★ときめきサイエンス

『実際の手術室で学ぶ手術手技トレーニングの体験学習』
—将来の外科医を目指してPart2⑤—

8月4日(土)、中高生を対象に行われた本セミナーには、県内外から34名の参加がありました。腹腔鏡手術のシミュレーターや、縫合、電気メスなどを実際に体験して頂き、参加者からは「楽しかった、貴重な経験になった」「外科医を目指したい」などの感想をいただきました。指導を担当した外科医にとっても非常によい経験となりました。



結紮（糸結び）



内視鏡体験



鏡視下手術手技
（キャラメルの包み剥き）

イベント情報

「重粒子線がん治療施設見学会」

●内 容： 昨年は約800人の方にお越しいただきました重粒子線医学センターの一般公開を、今年もパワーアップして開催します！通常は治療施設として稼働しているため、一般に公開されるのは年に一度だけです。重粒子線治療の実績や仕組みなどをやさしく紹介する講演会も開催！4月から保険適用の範囲も拡大し増々注目の集まる重粒子線施設是非ご覧ください。

●日 時：平成30年10月20日（土）10～16時
●場 所：群馬大学重粒子線医学センター
（詳細はHPをご覧ください）

<http://heavy-ion.showa.gunma-u.ac.jp/>

●その他：ぐんまちゃんも来るよ！
ちびっこ集まれ！



群馬大学医学部附属病院「群大病院だより」

第5号 2018年9月

編 集 ■ 群大病院だより編集委員会

発 行 ■ 群馬大学医学部附属病院

発行日 ■ 2018年9月19日

ホームページ ■ <http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/>

病院の理念

大学病院としての使命を全うし、国民の健康と生活を守る。

基本方針

安全・納得・信頼の医療を提供する。
次代を担う人間性豊かな医療人を育成する。
明日の医療を創造し、国際社会に貢献する。
医療連携を推進し、地域医療再生の拠点となる。